

高等学校における歴史教育の状況：学生アンケートから

徳橋 曜¹

The Situation of High School Education of the World History: According to the survey of Students in the University

Yo TOKUHASHI

概要

2022年から施行される高等学校新指導要領に沿って、高等学校における歴史教育について抜本的な科目の変更が予定されている。従来の世界史・日本史の区別を一部無くし、世界史と日本史とを融合させた「歴史総合」が共通必修科目として設定され、これに接続する発展的な選択科目として「世界史探究」と「日本史探究」が設けられるのである。これらの新しい科目がどのようなものになるのか、その具体的な内容はまだ見えてこないが、高等学校の歴史教育のあり方が変わると共に、大学に入学してくる学生の歴史に関わる知識や認識のあり方も、従来とは異なったものとなる可能性がある。これに応じて、大学における歴史教育のあり方についても検討が必要となろう。しかしながら、実際のところ、高校生は学校での歴史教育とどのように向き合っているのか、そして歴史教育の成果はどの程度まで上がっているのか。本稿では、2016年度から実施している学生アンケートの回答に基づき、高等学校における世界史教育のあり方や、そうした教育に関わる彼らの認識を検討する。

キーワード：世界史、高等学校、大学、歴史総合、主体的・対話的で深い学び

Keywords : World History, High School, University, Historical Education, Active Learning

I. はじめに

現在の高等学校の歴史教育は世界史と日本史に分けられ、そのそれぞれにAとBの区別がある。このAとBという区別は、1989年告示の学習指導要領によって1994年度から世界史が必修科目とされたことに伴い、設けられた。高校生は必修科目として世界史Aと世界史Bのどちらかを履修するはずであり、日本史Aあるいは日本史Bは選択科目として位置付けられている。

特に世界史Aは、相対的に少ない時間数でも履修させることができるという点も考慮して設定され、その少ない時間数の中で歴史を学ばせる上で、前近代史よりも近現代史を重視するという観点が基本にある。無論、単に世界史Bの短縮版という訳ではない。後者が「世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特徴を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」ことを目標とするのに対し、前者は「近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会

に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」¹を目標として近代史に比重を置きつつ、時代横断的な視点も取り入れた意欲的な構成・内容となっている²。

このように世界史Aは、Bとは明確に異なる目標と理念を持った科目であるが、実態としては、必修という縛りの中で全生徒に世界史を履修させるために用いられることが多いようである。筆者が実施したアンケートの回答からもうかがえるように、生徒全員に世界史Aを履修させた上で、選択科目として世界史Bも履修させる高校もある。いわゆる「文系」の進路を選択する生徒には、Bの履修が必要となることがあるためでもあろう。実際、大学の入学試験においては、センター試験の点数を評価するに際して世界史B・日本史Bのみを対象とし、世界史A・日本史Aは対象外としている場合がある。こうした実情から、世界史Aは「受験に不要な科目」と認識され、大学入学試験までを展望した高等学校の世界史教育の主流は、世界史Bとなる傾向が続いている³。

2016年12月に文部科学省中央教育審議会が公表した「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（以下「答申」）では、小学校・中学校の社会科、高等学校の地理歴史科及び公民科について、「社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動

¹ 富山大学人間発達科学部

を充実し、知識や思考力等を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力、自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力、持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度」など、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育むことが、社会科・地理歴史科・公民科に必要であるとの旨が述べられている⁴。

この答申を踏まえた新学習指導要領に沿って、高等学校における歴史教育に関して、2022年から抜本的な制度変更が実施される。従来の世界史A・B、日本史A・Bに代えて、世界史と日本史とを融合させた「歴史総合」が共通必修科目として設定され、これに接続する発展的な選択科目として「世界史探究」と「日本史探究」が設けられるのである。先の答申においては、「近現代に関する学習の定着状況が低い傾向にある」ことが、課題として指摘された。2018年告示の新指導要領で、歴史総合は「社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す」ものとされ、次の目標が掲げられている。

(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

文部科学省が2018年に公表した『高等学校学習指導要領比較対照表【地理歴史】』では、これらの歴史総合の目標が掲載された「改訂欄」に対応する「現行欄」に、世界史A・世界史B・日本史A・日本史Bの目標が列挙されている。つまり、これら4種の科目を統合した理念と性格を持つのが歴史総合であることを、この体裁は示唆しているのである。これを見る限り「主体的で深い学び」に基づいた新しい理念を持った科目として、歴史総合が考えられていることがうかがえる。

しかしながら、意欲的な理念と枠組みを持った世界史Aが、この20年間歩んできた道を考えると、歴史総合の実施についても楽観はできない。世界史教育を取り巻く環境に十分に配慮しなければ、歴史総合が世界史Aの轍を踏む可能性もあろう。

そこで本稿では、2016年度から実施している学生に対するアンケートの回答から、高等学校における世界史教育の状況や、世界史教育に対する大学生（元高校生）達の認識を検討し、これからの世界史教育のあり方について考察する。

Ⅱ. 方法

大学の前期授業の最終回の講義（7月末ないし8月初）に際し、「高校と大学の世界史・外国史教育に関するアンケート」を実施した。対象としたのは以下の人間発達科学部の講義3つと教養教育の講義1つである。

- ① 環境歴史学（対象2年生以上 8月3日実施）
- ② ヨーロッパ地域史論（対象2年生以上 8月3日実施）
- ③ 世界システム概論（対象2年生以上 8月3日実施）
- ④ 西洋の歴史と社会（教養教育・対象1年生以上 7月31日実施）

①は環境と人間との関わりや環境に対する意識という観点から、ヨーロッパおよびアメリカ合衆国の歴史を概観する講義である。昨年度までは1年生から履修が可能であったが、本年度から2年生以上の履修科目となった。②は中・近世イタリア史に沿って、一つのテーマを論じ、考えさせる講義で、本年度のテーマは「ヴェネツィアの1000年間」であった。③はウォーラーステインの近代世界システム論を援用しつつ、「西洋史」を概観しながら「世界史」としての視野も意識している。これら3つの授業はいずれも、中学校社会・高校地歴の教員免許に関わる授業でもある。④は教養教育の講義であり、全学部の学生が受講できるものである。本年度より富山大学では、3つあるキャンパスの教養教育を1つのキャンパスに一元化したので、受講者は9つの学部にもわたることとなった。

このアンケート調査は2016年度から継続して実施している調査であり、高等学校における世界史教育に対する大学の意識に関するデータの蓄積を目的としている。質問項目は昨年度と基本的に同じであるが、本年度は回答者の学部を問う質問を加えた。前述のように9学部の学生が教養教育の受講生となったことを踏まえて、いわゆる「文系」「理系」といった学部の専門性によって、世界史履修の状況、あるいは歴史教育に対する意識や好悪の傾向に相違が見られるかどうかを確認するためである。

アンケートを実施した結果、受講者の多い教養教育の講義を主として、合計96名の学生から回答を得た。回

答者の学年の内訳は1年生67名、2年生24名、3年生3名、4年生以上2名である。

質問項目としてはまず以下の3項目を設定した。

1a) 学年

1b) 学部

2) 高校での世界史履修の有無

この3項目について確認した後、以下3～13は「履修した」と回答した者に答えてもらう。

3) 世界史の履修事情 (a 履修年次・b 履修した世界史の種類・c 学んだ世界史の種類)

4～6) 世界史が好きだったか否かとその理由

7～9) 世界史で受験したか否かとその理由

10) 大学の西洋史の講義で、高校で世界史を学んだことが役に立ったと感じたことはあるか？(高校の世界史学習の「有用性」の意識)

11) 大学の歴史の講義は、高校までの世界史教育とつながっていると思うか？(高校の世界史教育と大学の歴史教育の関連性の認識)

12) 高校や大学の授業で「歴史を考える」とは具体的にどうすることだと思うか？(主体的な学び・知識偏重ではない歴史教育というものに対する学生のイメージや意識)的にどうすることだと思うか？(主体的な学び・知識偏重ではない歴史教育というものに対する学生のイメージや意識)

13) 過去の世界史学習でもっと学びたかった点、もっと積極的に学ばべきだったと思う点

また、以下14～17は「履修しなかった」と回答した者に答えてもらう。

14) 高校で歴史関係の科目を履修したか？

15) 高校以外の場で世界史を履修したか？

16) 大学の講義で、世界史を学んでおけばよかったと感じたことはあるか？

17) 大学の講義以外で、世界史を学んでおけばよかったと感じたことはあるか？

以上21項目のうち質問10と11は、学生の意識する歴史教育の「有用性」がどのようなものか、またどのようなことから、高校と大学の歴史教育のつながりが意識され得るかを知るために、2016年の調査開始時から設定されている。一方、質問12は、質問文でも強調しておいたように、文部科学省の提起する「主体的・対話的で深い学び」に関連し、「歴史を考える」ということについて、学生が具体的にどのようなものであるとイメージしているのかを知るために昨年度から設けたものである。

Ⅲ. アンケートの結果から

アンケートの回答結果については次頁以下に表としてまとめた。ここでは、特に本稿のテーマに沿った項目とその結果だけを取り上げる。

質問 1a) 学年

① 67名 (69.8%) ② 24名 (25.0%)

③ 3名 (3.1%) ④ 2名 (2.1%)

質問 1b) 学部

① 4名 (4.2%) ② 25名 (26.0%) ③ 16名 (16.7%)

④ 12名 (12.5%) ⑤ 21名 (21.9%) ⑥ 2名 (2.1%)

⑦ 2名 (2.1%) ⑧ 6名 (6.3%) ⑨ 8名 (8.3%)

質問 2) 世界史を履修したか？

① 74名 (77.1%) ② 22名 (22.9%)

今年度は96名中22名の世界史未履修者がいた。そのうち日本史も履修しなかった者は14名である。学部別に見ると、人間発達科学部4名(うち日本史履修者4名)、経済学部5名(日本史履修者2名)、理学部3名(日本史履修者なし)、工学部8名(日本史履修者1名、高等学校以外で世界史を履修した者1名)、芸術文化学部1名(日本史履修者なし)、都市デザイン学部1名(日本史履修者なし)である。やはり理系の学部に未履修者が相対的に多い。経済学部は「文系」ではあるが、大学受験においては歴史を必須とせず、また経済学には統計などの数学的な要素も多分に含まれることを考えると、高等学校で「理系」に類似した履修形態となっても不思議はない。

いずれにしても、世界史が必修となってから20年余が経過しているにもかかわらず、また世界史未履修が問題視された事件もあったにもかかわらず、受験に関係ないならば、必修科目とされていても敢えて履修させる必要はないという思考あるいは進路指導方法が、少なくとも一部の高等学校には根強く存在しているということが明らかである。

質問 3-a) 高校の何年次に履修したか？

※特に注記しない限り、以下の各質問について、人数の割合の分母は世界史履修者の総数(74名)である。

① 30名 (40.5%) ② 2名 (2.7%)

③ 20名 (27.0%) ④ 14名 (18.9%) ⑤ 0

⑥ 2名 (2.7%) ⑦ 6名 (8.1%)

⑦と回答した者のうち5名は3年間学んでいたと回答し、1名は1年次に世界史Aを、2～3年次に世界史Bを学んだと回答している。

質問 3-b) 履修したのは世界史Aか世界史Bか？

① 47名 (63.5%) ② 20名 (27.0%)

③ 2名 (2.7%) ④ 5名 (6.8%)

④と回答した5名はいずれもAとBの両方を履修していた。この5名は質問3-a)で3年間学んだと回答した学生達であり、1年次に世界史Aを、2～3年次にBを履修したのであろう。なお、3年間学んだと回答した学生は6人いたが、残る1名は、AかBか覚えていないとの回答であった。

質問 3-c) どのような学習内容であったか？

① 38名 (51.4%) ② 25名 (33.9%)

③ 11名 (14.9%)

資料 実施したアンケートの文面

高校と大学の世界史・外国史教育に関するアンケート(2018年7月)

このアンケートは高校における世界史教育と大学における歴史教育のあり方を考察する研究の資料として行うものです。このアンケートから得た情報は、所与の目的以外には一切使用しません。また個人が特定されることはありません。

質問には番号に○をつけて回答して下さい。また一部の質問には記述で回答して下さい。

- 1a) あなたの現在の学年は？ ① 1年生 ② 2年生 ③ 3年生 ④ 4年生以上
1b) あなたの学部は？ ①人文学部 ②人間発達科学部 ③経済学部 ④理学部 ⑤工学部
 ⑥医学部 ⑦薬学部 ⑧芸術文化学部 ⑨都市デザイン学部
2) 高校で世界史を履修しましたか？ ① した → 質問3～13へ
 ② しなかった → 質問14～17へ

以下の質問3～13には、質問2で①と回答した人が答えて下さい。

3) 高校での世界史の履修事情について

3-a) 高校の何年次に履修しましたか？

- ① 1年生の1年間 ② 1年生から2年生の2年間 ③ 2年生の1年間
④ 2年生から3年生の2年間 ⑥ 3年生の1年間 ⑦ その他 ()

3-b) 履修したのは世界史 A ですか B ですか？

- ① 世界史 A ② 世界史 B ③ A か B か分からない ④ その他 ()

3-c) どのような内容でしたか？

- ① 古代から近現代まで網羅的に学習した
② 前近代(18世紀まで)を主に学習した
③ 近現代(19世紀以降)を主に学習した

4) 高校時代、世界史という科目が好きでしたか？

- ① 好きだった ② どちらかといえば好きだった → 質問5へ
③ どちらかといえば嫌いだった ④ 嫌いだった → 質問6へ

5) 質問4で①ないし②と回答した人にうかがいます。好きだった主たる理由は何ですか？

- ① 内容が面白かったから
② 内容に特に興味はなかったが、試験では点数が取れたから
③ 先生の個性や授業の進め方が自分に合ったから

6) 質問4で③ないし④と回答した人にうかがいます。嫌いだった主たる理由は何ですか？

- ① 内容に興味を持てなかったから
② 覚えることが多くて面倒だったから
③ 先生の個性や授業の進め方が自分に合わなかったから

7) 大学入試センター試験で世界史(AあるいはB)を受験しましたか？

- ① した → 質問8へ ② しなかった → 質問9へ

8) 質問7で①と回答した人にうかがいます。世界史を受験した理由は何ですか？

- ① 世界史が得意だった（あるいは試験で点数が取れると期待できた）から
- ② 高校での履修の都合上、世界史を受験科目に選択せざるを得なかったから
- ③ その他

9) 質問7で②と回答した人にうかがいます。世界史を受験しなかった理由は何ですか？

- ① 世界史が苦手だった（あるいは試験で点数が取れないと予想した）から
- ② 世界史は苦手ではなかったが、より点数が取れると期待できる科目が他にあったから
- ③ 世界史を受験する必要がなかったから
- ④ その他

10) 大学の西洋史の講義を受講するなかで、高校で世界史を学んだことが役に立ったと感じたことはありますか？

- ① ある → どんなことで役に立ったか、できれば具体的に書いて下さい
- ② ない

11) 大学における歴史の講義は、高校までの世界史教育とつながっていると思いますか？

- ① 思う → どういう点でそう思うか、できれば具体的に書いて下さい
- ② 思わない → その理由を、できれば具体的に書いて下さい

12) 次期学習指導要領が「主体的・対話的で深い学び」を重点と位置づけているように、大学を含めた学校教育において、「覚える」ことではなく「考える」ことが重視されています。では高校や大学の授業で、「歴史を覚える」のではなく「歴史を考える」とは具体的にどうすることだと思えますか？（自由記述）

13) 自分の過去の世界史学習を振り返って、もっとこういう点を学びたかった、あるいはもっと積極的に学ぶべきだったと思うことはありますか？

- ① ある → 具体的にはどういう点についてですか
- ② ない

質問2で①と回答した人は、以上で回答終わりです。ご協力ありがとうございました。

以下の質問14～17には、質問2で②と回答した人が答えて下さい。

14) 高校で歴史関係の科目を履修しましたか？

- ① 日本史を履修した
- ② 歴史関係の科目は全く履修しなかった

15) 高校以外の場（予備校等）で世界史を履修しましたか？

- ① した
- ② しない

16) 大学の講義を受講して、世界史を学んでおけばよかったと感じたことはありますか？

- ① ある → どんなことでか、できれば具体的に書いて下さい。
- ② ない

17) 大学の講義以外の機会に、世界史を学んでおけばよかったと感じたことはありますか？

- ① ある → どんなことでか、できれば具体的に書いて下さい
- ② ない

質問2で②と回答した人は、以上で回答終わりです。ご協力ありがとうございました。

世界史 A の履修者を含めて、大半の学生は高校で通史を網羅的に学んだ、あるいは学んだと自覚していることが判る。留意したいのは、「②前近代（18世紀まで）を主に学習した」と回答した者のうち、世界史 A を履修していた者が 20 名もいることである。前述の教育指導要領の目標にあるように、世界史 A は「近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させる」科目であるが、前半部分は古代からの通史的な内容である。世界史 A でありながら、前近代が主たる内容であったと学生達が認識しているということは、仮に、教師としては世界史を学ばせる唯一の機会として網羅的に教えようとしたのだとしても、時間が足りず、前近代で終わってしまった事例が多いことを示唆する。これでは、近現代に力を入れた世界史 A の理念は、全く活かされていないことになる。同様に近現代に特に力点を置く歴史総合についても、こうした問題が生じる可能性がある。現場の教師の力量が問われるのは当然としても、個々の教師に頼るのではなく、方法論を考えていく必要がある。

質問 4) 高校時代、世界史という科目が好きであったか？

- ① 18 名 ② 21 名 (①と②の合計 52.7%)
 ③ 22 名 ④ 13 名 (③と④の合計 47.3%)

質問 5) 好きであった理由

※分母は「好き」・「どちらかといえば好き」と回答した 39 名

- ① 29 名 (74.4%) ② 5 名 (12.8%) ③ 5 名 (12.8%)

質問 6) 嫌いであった理由

※分母は「嫌い」・「どちらかといえば嫌い」と回答した 35 名

- ① 10 名 (21.1%) ② 20 名 (68.4%) ③ 3 名 (5.2%)

これ以外に①と②の両方を挙げた者が 2 名、①～③の総てを挙げた者が 1 名いた。

昨年度までの調査にもうかがえたことであるが、必ずしも世界史が高校生から嫌われる科目ではないということは指摘できよう。高等学校で世界史を履修した者の半数以上は、世界史が嫌いではなかったと認識しているのである。もっとも、「嫌いだった」と回答した者であっても、大学で筆者が担当する西洋史の授業を最後まで履修する程度には、歴史の授業を受け入れてはいる。なお、質問 6 の嫌いであった理由としては、今年度も 35 名中 20 名 (68.4%) が「②覚えることが多くて面倒だったから」を挙げており、あれもこれもと知識を教えがちな教師の善意が、生徒に負担感を与えている様子に変わりはない⁵。この点については、先の日本学術会議が提案したように、教科書で教えなければならない事項や人物を厳選して、「覚える」よりも「調べる」・「考える」時間を取れるようにしなければならないであろう。

とはいえ、歴史について思考するためには、日常的な感覚や常識・経験だけではなく、固有の歴史的文脈・事象に関する知識や認識がなければならず、それは理解し、覚えるほかはない。そうした材料となる知識をどれだけ、

そしてどのように習得させるべきか。そうした点については、慎重な議論が必要である。

質問 10) 大学の歴史の講義で、高校での世界史学習が役立ったか？

- ① 27 名 (36.5%) ② 47 名 (63.5%)

役立ったと感じた理由

- ・自分の知っている内容が出てきたときに役に立ったから。
- ・いきなり出てきた用語もあれかと理解できたし、何かをやるにつけても背景知識がなんとなくあると理解はしやすかった。
- ・ベースができていたから。
- ・作品制作の知識として役に立った。
- ・基礎となる知識があった点。
- ・知っている人物が多かった。
- ・奴隷貿易など、高校で習った内容を使うことがあるから。
- ・基礎的な単語を一度聞いたのとそうでないのとでは、講義の理解度が大きく異なることが分かった。
- ・人物名や国名をなんとなく覚えていたので内容が分かりやすかった。
- ・大学に入って流れを知ることができた。
- ・概要がつかめた。
- ・キーワードが高校で聞いたことがあるものもあったから、理解する時に役に立った。
- ・少しだけだが話の流れをつかめていたから、理解しやすかった気がする。
- ・だいたいのベース知識を分かった上で話を聞けたから。
- ・世界遺産などに興味を持てるようになった。
- ・高校の時に学んだところは流れがある程度理解できたから。
- ・世界史を勉強していなかったら全体的に理解できなかった。
- ・出来事などをしていたのでより深い理解ができたと思う。
- ・高校の時の授業内容はほとんど覚えていないが、歴史の流れだけでも覚えていくことは基礎知識でもあるため、すんなり内容が入ってきやすい。
- ・大体の流れくらいはわかること。聞いたことのある名前が出ると内容が頭に入りやすい。
- ・初めて聞いたという単語が少なかった点。

質問 11) 大学の歴史の講義と高校の世界史の関連はあると思うか？

- ① 40 名 (54.1%) ② 32 名 (43.2%)

無回答 2 名 (2.7%)

関連があると思う理由

- ・重なる部分もあったから。
- ・高校の基礎をもとに積み上げていくイメージだから。
- ・高校よりも掘り下げていて好きだった。

- ・一般教養のため、判断が難しい。
- ・同じ人物がよくでてくるから。
- ・高校までに学んだ世界のつながりをふまえて、大学でそれぞれの国に特化した勉強ができると思うから。
- ・内容がほぼ同じ。
- ・高校で基本的な知識を培い、大学ではそれらをより深く学んでいくという点で、つながっていると思う。
- ・高校では事実をつらつら習い、大学では考察や深い研究を知る。
- ・基礎知識。
- ・高校で習った世界史をもっと深めていっている感じがあるから。
- ・大まかにつかむ高校 [の世界史] に内容を加えたような感じがするから。
- ・内容はかなり細かく一時代の中でも掘り下げたものであるが、起きた事象がわかる分、理解につなげやすいから。
- ・ほぼ内容がかぶっていたから。
- ・世界史の基本的知識が必要とされていたから。
- ・歴史の流れは同じだから。
- ・大学での勉強はいわば高校で習った内容の掘り下げであるため、知っていれば知っているほど面白く感じる。
- ・くわしい内容が加わってくるが、本筋は変わらない点。
- ・高校で学んだ基礎をつかって大学で考えるから。
- ・過去に起きたことに変わりはない点。
- ・前提としておおまかな流れを理解しておくのに高校の授業はおおいに役立つ。
- ・高校の内容の発展が大学の講義。
- ・大学で講義を受けて、ある程度ここは分かると思ったところがあった。
- ・高校では個々の事件を習い、大学ではそれらをつながかんじ。
- ・固有名詞がわかる。
- ・最低限の知識が必要だったから。
- ・発展した内容になっていた。
- ・どのような流れでその時代があるか分かるから。
- ・内容をより深く知ることができたし、先生の独自の考えも知ることができるから。
- ・内容をさらにくわしくしている点。

関連がないと思う理由

- ・高校の歴史はまだ語句だけを覚えるという側面があるから（全てではないが）。
- ・高校とは世界史の進め方が全く異なっていたから。
- ・多分つながっているとは思うけど、高校で西洋史をほとんどやらなかったのだから、自分はそのことを実感できなかったから。
- ・高校での学習があまり頭に入っていないため。
- ・一つ一つの内容を深く思考するものでないから。
- ・高校1年生の1年でならったことを覚えていなかったから。

- ・あまり詳しく学習していなかったのだから。
- ・高校の歴史の内容が浅いから。
- ・新しい内容もたくさん学んだから。
- ・よく分からない。
- ・高校で学習した範囲がとびとびだったから。
- ・高校では出来事を学ぶだけで大学とは違った。
- ・高校での世界史の学習が近現代しかやっていないので、解答できない。
- ・勉強したことが出なかった。
- ・高校はAだけでほとんど中国史だったから。
- ・大学は自分の考え方が重視されてる気がするから。
- ・レベルが高い。
- ・高校の世界史を少ししかやっていないので、つながっているかどうか分かりません。
- ・世界史の内容をおぼえていないので……
- ・大学の内容で「あ、わかる」と感じたことがなかったから。
- ・世界史の内容を覚えていないから。

質問10)と質問11)を合わせて見ていくと、歴史そのものには変わりがないのだから、高等学校の歴史の授業と大学の歴史の授業の間に関連はあるだろうといった、少々投げやりとも思える意見はさておき、やはり高等学校で学んだ事項と大学の授業で学ぶ内容との比較的単純な類似性や連続性によって、高等学校での世界史教育の有益性や、大学の講義と高等学校の学習内容の関連性を意識する学生が多い。これは過去2年間にも見られた傾向であり、これ以上の意識を求めることは難しいのかもしれない。実際、大学の講義は高校で学んだことを土台にするものと、筆者を含めた多くの大学教員が考えてきた。高等学校での学習を単に発展させる訳ではないが、我々大学で歴史学を教える教員は、今後、歴史総合で学生達が何を教えられ、何を考えさせられてくるのか、ある程度までは意識して授業を組み立てる必要がある⁶⁾。

一方、関連性がないと思う理由として、学生達が挙げている回答の内容からは、高校時代の世界史はただ知識や語句を覚えさせられたという意識が強いことがうかがわれる。また「高校で西洋史をほとんどやらなかった」、「高校で学習した範囲がとびとびだった」、「Aだけでほとんど中国史だった」といった指摘は、当該高等学校での世界史教育の問題点も示唆するものである。学生の言う、高等学校の歴史の授業は「一つ一つの内容を深く思考するものでない」、「習ったことをほとんど覚えていない」という現状に対して、歴史総合の実施が即効性のある特効薬になるとは考えられないが、少なくとも現状を変える契機にはなることを望みたい。

質問12)「歴史を考える」とはどのようなことだと思うか？

回答者52名(70.3%)

- ・ある資料から、昔、何がおきたかを合理的に考えるこ

- と。
- ある程度のことを知った上で、それらを使って歴史について考えること。
- ある出来事に関するテーマで話し合う。
- 疑いの目をもつ。
- 過去の事例から知識だけではなく、なぜそうなったのかを具体的に掘り下げていくことで、因果関係をとらえる力が身につくと思うので、歴史を学ぶのではなく、歴史に学ぶ姿勢を学ぶこと。
- 考えさせる述術〔記述〕式の問題を出す。日本は近・現代史を教える必要がある。
- 基礎知識がないとついていけないし考えられないから、受験で世界史を使った人向けに開講すべき。
- 記述式の問題をテスト等で多く取り入れる。
- 既存の知識からこうだったのではないかなどと考察すること。
- 現代の判断。
- 高校ではよっぽど興味のないかぎり、テストのために歴史を覚えるのが主になってしまうと感じる。
- 事件などがどうして起こったのか、どうすれば防ぐことができたかを考える。
- 試験を廃止する（暗記→はき出す系の）。
- 時代背景や何故その出来事が起こったのか？
- どうしてそういう結果になったのかを考えること。
- 戦争や革命の起こった原因や背景を知ること。
- センターのようなテストでは、人物名やおきた争いの名前などの暗記ばかりであり、深い理解を妨げていると思う。なぜ当時の人々がその戦争を起こしたのか理由を説明せよ、などの問題だと、考えるといったものにつながると思う。
- その時代の出来事を知り、それが起こった背景やその首謀者の気持ちを類推すること。
- その出来事でどうして、と考えることが大事だと思う。そして、それを今について考えてみる。
- その当時の人々が何を考えてその行動をとったのか考えて、歴史を学ぶということ。
- その当時の人々の立場まで考えること。
- それぞれの出来事の因果関係を考えて、現代社会を見ること。
- 他学問との結びつきから多面的に事象を追求〔ママ〕すること。
- 他の出来事と関連づけて教える。
- ディベート、知識おひろめ大会。
- どういう資料や文献から歴史的事実を判断したのかを知ることが大事。
- どうしてあのような出来事が起こったのかを考える。
- どうしてそのような事件とかが起こったのか、その時代の背景などを含めて自分の意見を書くこと。
- どうしてそのような歴史的事実がおこったのかの理由を考えること。

- 流れを理解する。どの出来事がどう未来につながっていったのかを見る。
- 流れで理解。
- なぜそのような歴史的事件が起こったのか、歴史的背景から見て考えることで、覚える世界史（歴史）というよりは、主体的に学ぶ、考えてよみとく、考察することが、歴史を考えることだと思う。そのため、なぜ百年戦争は起こったのか、なぜジャンヌダルクは処刑されたのか、といった歴史的背景からみたものを考えることが重要だと思う。
- なぜそのような歴史の流れになったのか（出来事のつながりの要因）を自分たちで推測してみることに。
- 何が起こったか説明できること。
- 年号と事件名を覚えるだけでなく、そこでの歴史的背景や市民の心情を考えること。
- 昔の人がどんな思いでその行動に出たのか、意図まで読みとる。
- 歴史における真実を追い求めること。
- 歴史を覚えただけで、なぜそのようなようになったのか、どのような経緯をたどったのかを考えること。
- 歴史を知る。また、興味を持って取り組む。
- 歴史上の出来事の「何故」を考えること。
- 歴史上のできごとを理解し、その背景についてよく考えることだと思う。
- 歴史的事実を一つ一つ覚えるだけでなく、なぜこのようなことが起きたのかという理由や背景を考えること。
- 歴史的な出来事を理解すること。
- 歴史的背景と流れをリンクさせること。
- 歴史に対して自分で評価する。
- 歴史の授業をなくす。
- 歴史のつながりをみていくこと。
- 歴史の流れを理解すること。
- 歴史の背景を知った上で、現代の問題について考え、解決策を見出したり、理解をすること。
- 歴史をカコの産物として事柄を覚えるのではなく、その歴史の思想や背景になる考えを学ぶのは、現代においての問題解決でもっと広い視野で考えるということにつながると思うから。
- 「～について論述し、自己の見解を述べよ」的な問題をつくる。
- 分かりません。

今回のアンケート結果でも、多くの学生は、比較的単純に歴史的事項の暗記に対置させて、史実同士の因果関係や事件の背景を考えることを「歴史を考える」ことであると認識している。「どういった資料や文献から歴史的事実を判断したのかを知ることが大事」だと指摘してくれた回答者もいる。「高校ではよっぽど興味のないかぎり、テストのために歴史を覚えるのが主になってしまうと感じる」、「センターのようなテストでは、人物名やお

表 アンケートの回答一覧

***	1a	1b	2	3a	3b	3c	4	5	6	7	8	9	10	10の内容	11	11の内容	12	13	13の内容	14	15	16	16の内容	17	
1	3	2	1	3	1	1	2	1	0	2	0	3	1	基礎的な単語を一度聞いたのさうでないのでは、講義の理解度が大きく異なることが分かった。	1	高校で基本的な知識を堆い、大学ではそれらをより深く学んでいくという点で、つながっていると思う。	過去の事柄から知識だけではなく、なぜそうなったのかを具体的に掘り下げていくことで、因果関係をとらえる力が身につくと思うので、歴史を学ぶのではなく、歴史に学ぶ姿勢を学ぶこと。	1	世界と日本とのつながりがもう少し詳しく知りたかった。						
2	2	2	1	4	2	1	2	1	0	1	2	0	1	人物名や国名をなんとなく覚えていたので内容が分かりやすかった。	1	高校では事実をつらつら習い、大学では考察や深い研究を知る。	どうい資料や文献から歴史的事実を判断したのかを知ることが大事。	1	スピード重視のイメージが強かった。もっと討論などもしたかった。						
3	2	2	1	1	1	1	3	0	2	2	0	3	2		2	高校はAだけでほとんど中国史だったから。	他の出来事と関連づけて教える。	2							
4	2	2	1	6	1	2	1	1	0	2	0	3	1	経験豊富など、高校で習った内容を使うことがあるから。	1	高校までに学んだ世界のつながりをふまえて、大学でそれぞれの国に特化した勉強ができると思うから。	なぜそのような歴史の流れになったのか(出来事とのつながりの裏面)を自分たちで推測してみる。	1	出来事とのつながりをもっと分かるように学びたかった。(参考書にのっているようなことも)						
5	2	2	1	4	2	1	1	1	0	1	2	0	1	いきなり出てきた用語も、あれかと理解できたし、何かをやるにつけても背景知識がなんとなくあると理解はしやすかった。	2	高校の歴史はまだ語句だけを覚えるという側面があるから(全てではないが)。	ある程度のことを知った上で、それを使って歴史について考えること。	2							
6	2	2	1	3	1	1	1	1	0	2	0	2	2		1				1						
7	2	2	1	3	1	1	1	1	0	2	0	2	2		1	高校の内容の発展が大学の講義。	歴史的背景と流れをリンクさせること。	1	古代ローマなど。						
8	2	2	1	1	1	2	3	0	3	2	0	1	1	聞いたことのある名前が出る内容が頭に入りやすい。	1	高校で学んだ基礎をつかって大学で考えるから。		2							
9	3	2	1	1	1	2	3	0	2	2	0	2	1		1				2						
10	3	2	1	1	1	2	3	0	2	2	0	2	1	高校の時の授業内容はほとんど覚えていないが、歴史の流れだけでも覚えていくことは基礎知識でもあるため、すんなり内容が入りやすい。	1	大学での勉強はいわば高校で習った内容の掘り下げであるため、知っていれば知っているほど面白く感じる。	なぜそのような歴史の事件が起こったのか、歴史的背景から見て考えることで、覚える世界史(歴史)というよりは、主体的に学ぶ、考えてみよと、考察することが、歴史を考えることだと思う。そのため、なぜ百年戦争が起こったのか、なぜジャンヌダルクは処刑されたのか、といった歴史的背景からみたものを考えることが重要だと思う。	2							
11	2	2	1	3	2	1	4	0	3	2	0	3	2		1				1	近現代の歴史					
12	2	2	2																	1	2	1	世界を詳しく見ることで、比較できるようになり、日本(史)がより見えやすくなったように感じる。	2	
13	2	2	2																	1	2	1	世界史が思ったよりも面白いと思ったこと。	2	
14	2	2	1	7	4	1	1	3	0	1	1	0	1	だいたいのベース知識を分かった上で話を聞けたから。	1	内容はかなり細かく一時代の中でも掘り下げたものであるが、起きた事象がわかる分、理解しやすかった。	センターのようなテストでは、人物名やおきた争いの名前などの暗記ばかりであり、深い理解を助けていると思う。なぜ当時の人々がその戦争を起こしたのか理由を説明せよ、などの問題だと、考えるといったものにつながると思う。	1	西洋、アジアなどの歴史を年表上でつなぐための学習が遅れてしまったのでやりたかった。						
15	2	2	2																	1	2	2		2	
16	1	2	1	7	3	1	2	1	0	2	0	4	1	大学に入って流れを知ることができた。	1				1	一次～二次世界大戦について					
17	1	4	1	3	1	2	4	0	2	2	0	3	1	初めて聞いたという単語が少なかった点。	1	過去に起きたことに変わりはない点。	歴史の授業をなくす。	2							
18	1	4	1	3	1	1	4	0	2	2	0	1	2		2	高校の世界史を少ししかやっていないので、つながっているかどうか分かりません。	昔の人がどんな思いでその行動に出たのか、意図まで読みとる。	2							
19	1	8	1	4	2	1	1	1	0	1	1	0	1	ベースができていたから。	1	高校の基礎をもとに積み上げていくイメージだから。	歴史の背景を知った上で、現代の問題について考え、解決策を出したり、理解をすること。	1	文化と政治についてもっと結びつけて学びたかった。						
20	1	5	1	1	1	1	3	0	1	2	0	3	2		1	内容をより深く知ることができたし、先生の独自の考えも知ることができたから。	その出来事でどうして、と考えることが大事だと思う。そして、それを今について考えてみる。	2							
21	1	8	1	4	2	1	1	1	0	1	3	0	1	作品制作の知識として役に立った。	1	高校よりも掘り下げていて好きだった。		2							
22	1	9	1	3	1	1	2	1	0	2	0	3	2		2	高校での学習があまり頭に入っていないため。	歴史をカゴの産物として事柄を覚えるのではなく、その歴史の思想や背景になる考えを学ぶのは、現代においての問題解決でもっと広い視野で考えるということにつながると思うから。	1							
23	1	2	1	7	4	1	3	0	2	1	1	0	1	出来事などをしっていたのでより深い理解ができたと思う。	1	歴史の流れは同じだから。	どうしてそのような歴史的事実がおこったのかの理由を考えること。	2							
24	1	3	1	2	1	2	2	1	0	2	0	3	1	キーワードが高校で聞いたことがあるものもあったから、理解する時に役に立った。	1	高校で習った世界史をもっと深めていっている感じががあるから。	歴史的な出来事を理解すること。	2							

68	1	0	1	1	1	1	2	1	1	0	2	0	2	2	2	多分つながっているとは思いますが、高校で西洋史をほとんどやらなかったで、自分はそのことを実感できなかったから。	流れを理解する。どの出来事がどう未来につながっていったのかを見る。	1	もっと世界史全体をやりたいかった。西洋史や東洋史もやりたいかった。古代だけでなく中世も。					
69	1	4	1	1	1	2	4	0	1	2	0	3	2		1									
70	1	7	1	1	2	2	2	0	2	0	4	2			2	あまり詳しく学習していなかったの。	疑いの目をもつ。	2						
71	1	9	2																	2	2	2		
72	1	5	1	1	1	3	2	3	0	2	0	3	2		0									
73	1	9	1	1	1	1	4	0	2	2	0	3	2		0									
74	1	8	2																		2	2	1	
75	1	5	2																		2	2	2	
76	1	9	1	3	1	2	3	0	2	2	0	3	2		2									
77	1	9	1	6	1	2	4	0	2	2	0	3	2		2									
78	1	5	1	1	1	2	4	0	2	2	0	3	2		2		基礎知識がないとついていけないし考えられないから、受験で世界史を履いた人向けに開講すべき。	2						
79	1	5	2																		2	2	2	
80	1	9	1	1	2	1	3	0	2	2	0	4	1		1	高校の時に学んだところは流れがある程度理解できたから。	ほぼ内容がかぶっていたから。	2	歴史上のできごとを理解し、その背景についてよく考えることだと思う。	2				
81	1	5	1	1	3	1	1	0	2	0	2	2			2									
82	1	5	2																					
83	2	3	2																			1	2	1
84	1	4	1	1	1	2	4	0	1	2	0	3	2		2									
85	1	8	1	1	1	2	2	0	2	0	4	2			2	高校1年生の1年で習ったことを覚えていなかったから。	どうしてあのような出来事が起こったのかを考える。	2						
86	1	5	1	1	1	3	3	0	2	2	0	3	1		1	大体の流れくらいはわかること。	くわしい内容が知わって行くが、本筋は変わらない点。	2	その当時の人々の立場まで考えること。	2				
87	2	5	1	1	1	3	3	0	1	2	0	3	2		2	高校での世界史の学習が近現代しかやっていないので、解答できない。		2						
88	1	3	2																			1	2	2
89	1	9	1	3	1	3	2	3	0	2	0	2	2		2	新しい内容もたくさん学んだから。	既存の知識からこうだったのではないかなどと考察すること。	2						
90	1	9	1	3	1	3	2	2	0	2	0	3	2		2	高校の歴史の内容が浅いから。	「～について論述し、自己の見解を述べよ」的な問題をつくる。	2						
91	1	3	2																			2	2	2
92	1	2	1	4	2	1	3	0	2	1	2	0	1		1	世界史を勉強していなかったら全体的に理解できなかった。	世界史の基本的知識が必要とされていたから。	2	事件などがどうして起こったのか、どうすれば防ぐことができたかを考える。	2				
93	1	3	1	4	2	1	4	0	3	1	2	0	2		2	大学の内容で「あ、わかる」と感じたことがなかったから。		2	分かりません。	2				
94	1	3	1	4	2	1	2	3	0	1	2	0	2		1	どのような流れでその時代があるか分かるから。	何が起こったか説明できること。	2						
95	1	2	1	7	4	1	1	0	1	0	1	0	1		1	知っている人物が多かった。	同じ人物がよくでてくるから。	2	どうしてそういう結果になったのかを考えること。	2				
96	1	8	1	3	1	1	3	0	2	2	0	1	2		2	大学は自分の考え方が重視されてる気がするから。	歴史における真実を追い求めること。	2						

きた争いの名前などの暗記ばかりであり、深い理解を妨げていると思う」等の回答は、歴史教育が暗記の学問と化しているというステレオタイプの批判にも重なるが、実際に大学入試を経てきた学生達の実感として受け止めるべきであろう。

質問 13) 世界史学習を振り返って、学びたかった点やもっと積極的に学ぶべきだったと思うことはあるか？

① 17名 (23.0%) ② 56名 (75.7%)

無回答 1名 (1.3%)

具体的な内容

- ・世界と日本とのつながりがもう少し詳しく知りたかった。
- ・一次～二次世界大戦について。
- ・全て。
- ・西洋、アジアなどの歴史を年表上でつなげての学習が遅れてしまったのでやりたかった。
- ・世界史で出来事の主要人物として出た人物が他に何をしていたか。
- ・スピード重視のイメージが強かった。もっと討論などもしたかった。
- ・もっと世界史全体をやりたかった。西洋史や東洋史もやりたかった。古代だけでなく中世も。
- ・出来事につながりをもっと分かるように学びたかった。(参考書にのっているようなことも)
- ・近現代の歴史
- ・古代ローマなど。
- ・覚えるのではなく、深い内容を知りたかった。覚えるのは自分でできるから。
- ・文化と政治についてもっと結びつけて学びたかった。
- ・近世以降。

この質問に対して、学びたかったものがあると回答した学生の数は、相対的に多くはない。しかし、彼らの反省には歴史を学ぼうという積極的な姿勢があり、また様々な観点から自分の体験した高等学校の世界史教育のあり方を批判している。試験をやる限り、考える歴史教育ではなく知識を覚えるだけになるだろう、というシニカルな意見も含め、我々はこうした声に向き合う必要がある。

IV. 考察

今年度の調査結果から、2016年度・2017年度のアンケート調査の結果も踏まえつつ、高等学校の歴史教育の現状を考察する。

まず世界史未履修者の割合について、2018年度は22.9% (同96名中22名)であったのに対し、2016年度は18.2% (回答者55名中10名)、2017年度は21.7% (同60名中13名)であった。アンケートを実施した授業科目は基本的に3年間を通じて重なるが、隔年開講の授業等もあるため一部は異なる。特に2016年度は「西洋

の歴史と社会」が対象外であったため、人間発達学部以外の学部の学生のデータが含まれていない⁷⁾。経済学部と理系学部にも履修者が多いことから、相対的に2017・2018年度の未履修者の割合が増えているのは、回答者にそうした学部の学生が増えたためと考えられる。

どれほど工夫し、理念を込めて歴史総合という科目を新設し、必修化しようとも、「受験に関係ない」といった理由で軽んじられたり邪魔者扱いされたりすれば、期待された教育効果を生み出すことはない。アンケート調査からうかがえる世界史未履修の現状は、一部にせよ、高等学校の現場における大学受験本位の意識が存在することを示唆する。こうした未履修を皆無とすることは困難であろう。日本学術会議史学委員会高校歴史教育に関する分科会は、2016年5月に「『歴史総合』に期待されるもの」と題する提言を公表した際、大学入試において歴史総合という科目に然るべき位置を与えることを主張している⁸⁾。確かに、この新たな科目が「受験に関係ない」ものと認識されれば、高等学校の現場において軽視されることが予想される。今後導入される大学入学共通テストや各大学の入学試験における歴史科目なかんづく歴史総合の位置付けは、高等学校の歴史教育に大きく影響するであろう。

学習内容を目向けると、世界史Aを履修した学生47名のうち①通史が16名(34.0%)、②主として前近代を学んだ者20名(42.6%)、③主として近現代を学んだ者11名(23.4%)であった。Bを履修した学生20名については①15名(75.0%)、②5名(25.0%)、③なしである。2016年度の調査ではA履修の19名中①11名(57.9%)、②1名(5.3%)、③6名(31.5%)、B履修の19名中①18(94.7%)、②なし、③1名(5.3%)であり、2017年度ではA履修23名中①10名(43.5%)、②10名(43.5%)、③3名(13.0%)、B履修18名中①14(77.8%)、②4名(22.2%)、③なしであった。前述のように、近現代に比重が置かれているはずの世界史Aの履修者のうちに、②を選んだ者が多過ぎる。実際、質問13に対し、学びたかった内容として「一次～二次世界大戦について」、「もっと世界史全体をやりたかった。西洋史や東洋史もやりたかった。古代だけでなく中世も」、「近現代の歴史」といった回答が含まれ、また質問11への回答に「高校はAだけでほとんど中国史だった」というものも見受けられる。A履修者に①と回答した者が多いことと合わせて、Aであってもできる限り網羅的に教えたという教師の熱意も察せられる一方、むしろ教師の恣意的な内容になる事例もあるようである。今後の歴史総合において、「何を教えるべきなのか」を明確にする必要のある所以である。

また、歴史の授業のあり方に対する学生の認識を質問12・質問13に対する自由記述の回答から見出すならば、自分達が受けた授業に比した「考える」歴史教育のあり方について、試験のために事実を覚えるのではなく史実

の背景にある理由や因果関係を考えるもの、歴史の流れを考えるものといった、比較的単純な捉え方が目立つ。しかし、それこそが、アクティブ・ラーニングをめぐる昨今の議論や実践を見聞・体験している世代にとって、高等学校における歴史の授業がまだまだ暗記主体と見えるような性格の強いものであることを示唆している。

次に質問10（世界史教育の有用性）と質問11（大学の講義との関連性）への回答を高等学校での履修と関連させてみると、質問11に対してはA履修者11名、B履修者10名、AB履修者5名が肯定し、質問12に対してはA履修者21名、B履修者13名、AB履修者5名が肯定した⁹。科目別では、有用性についてはA履修者の23.4%、B履修者の50.0%、AB履修者の100.0%が、関連性についてはA履修者の44.7%、B履修者の65.0%、AB履修者の100.0%が肯定したことになる。自由記述の回答内容も勘案すると、A履修者の肯定的回答の割合が相対的に少ないのは、やはり必修科目として履修しなければならなかったという負担感の影響が考えられる。但し、高等学校で学んだ世界史の内容の有用性を実感することはなくとも、世界史教育と大学の講義との関連性は認めている一定数の学生がいることには、留意したい。

これに関連して質問4（世界史への好悪）を見ると、A履修者の42.6%（20名）、B履修者の65.0%（13名）、AB履修者の60.0%（3名）が、「好き」または「どちらかといえば好き」と答えているが、この好悪と上記の「有用性」及び「関連性」との間にはそれぞれ有意の関連性があることを、2016年の調査で検証している¹⁰。

V. おわりに

以上のアンケートの結果から、元高校生である大学生の目を通して、高等学校の世界史教育のあり方と問題点を考えてみた。現在の必修化された世界史（特におそらく世界史A）が抱える問題は、今後、歴史総合にも生じかねないものである。

この10年来、羽田正や桃木至朗をはじめ、こうした状況に危機感を持つ研究者達は、様々な世界史教育の試みや視点を発表し始めている¹¹。勿論、それは高等学校の世界史教育の方法論に止まるものではなく、むしろ我々大学教員・研究者に問題を突きつけるものである。秋田茂、羽田正、南塚信吾らが編集の中心となって、近年刊行されているミネルヴァ書房のMINERVA世界史叢書のように、大学教員・研究者の側から積極的に「世界史」を捉え直そうとする刺激的な試みもある¹²。こうした動きが数年後の世界史教育の大きな変革にどのように結びつくのか、我々は当事者意識を持って考えていきたい。

文献

- 秋田茂・永原陽子・羽田正・南塚信吾・三宅明正・桃木至朗（2016）：『「世界史」の世界史』、ミネルヴァ書房
 小川幸司（2009）：「苦役の道は世界史教師の善意でしきつめられている」『歴史学研究』859, 191-200頁
 大学の歴史教科書を考える会（2016）『わかる・身につく歴史学の学び方』、大月書店
 徳橋曜・小林真（2016）：「高等学校の世界史教育と大学の歴史学—歴史教育の接続の観点から—」『富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要 教育実践研究』、第11号, 143-157頁
 徳橋曜（2017）：「世界史教育の方向性と大学教育：『歴史総合』の新設を展望して」『富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要 教育実践研究』、第12号, 149-160頁
 日本学術会議（2016）：『「歴史総合」に期待されるもの』（<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-t228-2.pdf>）（2017年8月15日最終閲覧・ダウンロード）
 羽田正（2011）：『新しい世界史へ——地球市民のための構想』岩波書店
 羽田正（責任編集）（2016）：『地域史と世界史』、ミネルヴァ書房
 桃木至朗（2009）：『わかる歴史・面白い歴史・役に立つ歴史』、大阪大学出版会
 文部科学省（2018）：『高等学校学習指導要領比較対照表【地理歴史】』（http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/07/13/1407085_3.pdf）（2018年8月29日最終閲覧・ダウンロード）
 文部科学省中央教育審議会（2016a）：『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf）（2017年8月20日最終閲覧・ダウンロード）

¹ 文部科学省（2018），17頁。

² 日本史AとBの区別も同様で、日本史Aは近現代主体の、Bは通史的な学習となっている。同上。

³ 桃木至朗（2009），23-24頁。

⁴ 文部科学省中央教育審議会（2016），132頁以下。

⁵ 小川幸司（2009），191頁。

⁶ 桃木至朗（2009），30-32頁。

⁷ この年度には筆者が教養教育を担当しなかったためである。

⁸ 日本学術会議（2016）。

⁹ それぞれの総数にはAかBかが不明と答えた1名も

含まれている。

¹⁰ 徳橋曜・小林真 (2016), 154-155 頁。なお, 2016 年度の調査では A 履修者の 42.1%, B 履修者の 33.7%, AB 履修者の 71.4% が「好き」ないし「どちらかといえば好き」と回答した。

¹¹ 例えば, 羽田正 (2011); 桃木至朗 (2009)。

¹² 例えば, 羽田正 (2016); 秋田茂・永原陽子・羽田正・南塚信吾・三宅明正・桃木至朗 (2016) など。

(2018年 8 月31日受付)

(2018年10月 3 日受理)